

代表 令和7年度 菊川市のトリセツ

小林 博文（みどり21）



令和7年度施政方針にある市政運営の基本的な考え方について問う。

❶ 黒沢川の特定都市河川指定のメリットは。流域水害対策計画の内容、連携する機関、策定期間は。

❷ メリットとしては国からの新たな補助適用や重点的な配分となる等、浸水対策の加速化が期待される。流域水害対策計画策定の関係機関は、河川管理者、市、地域住民等で構成される「流域水害対策協議会」を設置予定。具体的内容は、河川改修や雨水貯留施設の整備などを協議会で検討し、令和7年度中の策定を目指す。

❸ 優良農地確保のため、傾斜のきつい部分は農地から除外していくことも必要と考えるが見解は。また、レモンや荒廃茶園の茶葉による製品開発実証実験の想定している担い手とは。

❹ 山間部の急な傾斜の農地が荒廃化していることは課題だが農地での活用が原則。しかし、山林化し復元困難な場合、農地から除外する事が

ある。実証実験の担い手は、経営難の茶生産者の新たな収入源として複合経営に取り組む茶生産者を想定している。



❺ 企業誘致で工業用地開発候補地選定は早急に進めるべきと思うが見解は。また、菊川市の強みを活かし、誘致対象の業種等は想定しているか。

❻ 平成30年に5カ所の調査を行い、1カ所は企業の工場拡張につながった。誘致対象としては業種にとらわれず、雇用の創出や人口増加、税収確保など地域経済の活性化につながる誘致活動を行う。また、市内企業

の事業拡充時に市内に留まっていたできるよう引き続き情報提供や連携をしていく。

❶ 菊川市立総合病院や家庭医療センターなどの強みを市外へ情報発信して患者を呼び込む考えは。

❷ 菊川市立総合病院では、ホームページに最新情報の掲載をするともに、病院だよりの発行を年4回行い、近隣市の開業医や福祉・介護施設などへ送っている。内科は4月から紹介状無しで受診可能となるよう体制整備を進めている。家庭医療センターでは、外来診療だけでなく、在宅診療など、家庭医を養成しながら地域に根差した医療提供を行っている。

❸ 「学校の未来を考える会」の目指すゴールとその決定時期は。また、令和8年度から行う協議内容は。

❹ ここ一、二年の出生数の急激な減少により小規模な学校が増えること、さらには複式学級となる学校が生じる可能性もあり、本市の掲げる教育が維持できなくなることが想定される。「学校の未来を考える会」では、これらの課題を受けて令和10年度を目標に子どもたちに望ましい教育環境を確保するため、方策案の

作成に向け進めている。令和8年度からの地域との協議内容は、学校や地域の実情を踏まえ、子どもたちに望ましい教育環境の将来像を協議するための意見交換を実施する。

❶ 菊川駅周辺の賑わい創出で南北ロータリーの構想の実現には、計画を今示すべきと考えるが見解は。

❷ 市民・若者・事業者等と様々な議論の場を持ち進めてきた。引き続き官民連携による菊川市賑わいづくり研究会等で話し合いを進める。南北ロータリーは歩行者動線を優先して整備し、駅前広場は待つことや人々が出会う空間に必要な休憩施設や広場空間として整備することを計画している。

